

Guit
5250 ホストエミュレーター
(WEB 版)

ユーザーガイド

1. 0 版

2011年10月6日



フィス株式会社

<目次>

1. ご紹介	1
2. 5250 エミュレーター導入設定手順	2
〔1〕 サーバーへの導入	3
①. プログラムのインストール	4
②. ライセンスキーの登録	6
③. サーバープログラムの起動	6
〔2〕 セッション作成／変更	9
プロファイル名	10
ホスト名	10
ポート	10
ワークステーション ID	10
ホストコードページ	10
自動接続	10
ディスプレイ設定	11
カラー設定	12
キー定義	13
〔3〕 セッション削除	14
〔4〕 端末の設定	15
〔5〕 起動方法	18
3. 端末エミュレータ画面	20
ファイル	20
編集	21
通信	21
設定	22
4. キー定義詳細	23
キー定義	23
(1) 個別設定	24
【管理サーバでの設定】	24
【端末での設定】	29
【キー定義可能なキーの一覧】	30
【キー定義可能な機能の一覧】	32
(2) デフォルト設定	34
5. 前提事項	39

6. ホストとの接続について.....	40
〔1〕ワークステーションID (5250) について.....	40
〔2〕接続可能端末数について.....	40
〔3〕ホスト接続の構成について.....	41
(1) 5250 (AS/400) ホスト接続.....	41

1. ご紹介

このたびは、「5250 ホストエミュレーター Gui it」をご使用いただき誠にありがとうございます。

本製品は、WindowsXP または Windows7 の Internet Explorer で稼動する 5250 ホスト・エミュレーション機能を提供する製品となっております。

また、端末で行う日常的なホスト業務の画面操作におけるキー入力を考慮し、キー設定・割り当てを変更可能にするなど汎用性ある設計となっております。

お客様の重要なホストシステム資産ご活用の手段の一助として、本製品をご利用頂けましたら幸いです。

【お断り】

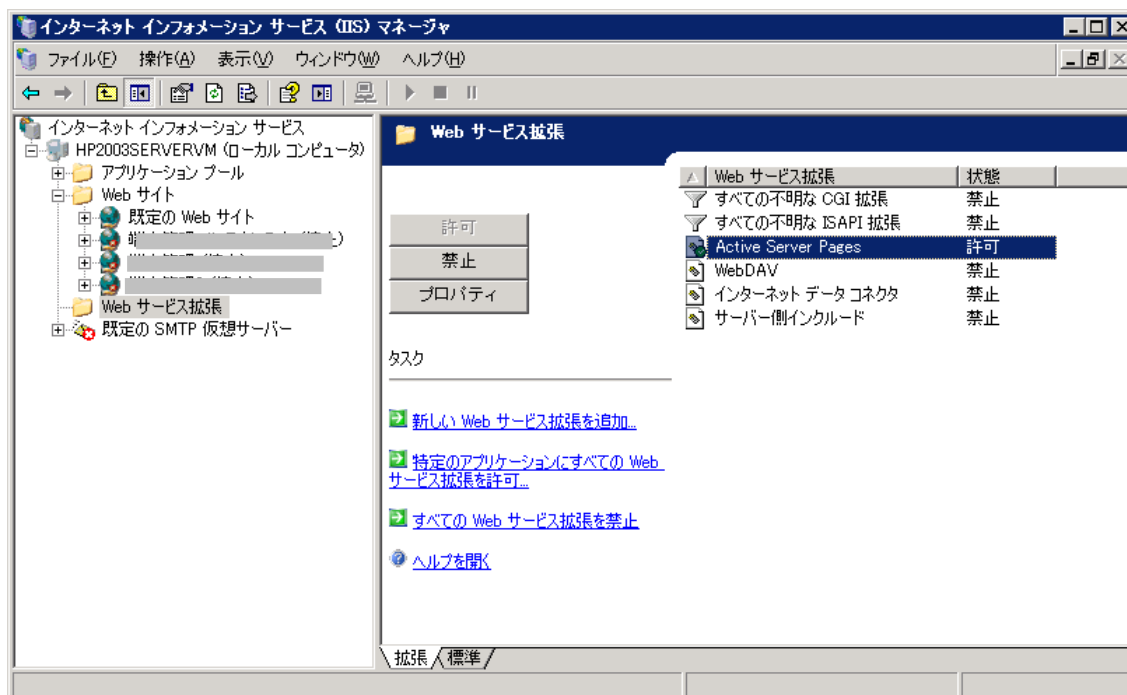
- (1) 本製品および、本書の内容は、改善のため予告なしに変更することがあります。また、本書の無断転載を禁じます。
- (2) 本製品および、本書の使用の結果として発生した、あるいはそれらを使用することが出来なかったことから発生した損害や不利益については、一切責任を行うものではありませんのでご了承ください。
- (3) お客様は、本製品をリバースエンジニア・逆コンパイル・逆アセンブルなどを行うことはできません。

2. 5250 エミュレーター導入設定手順

本章では、5250 エミュレーターGuiit の導入について説明します。

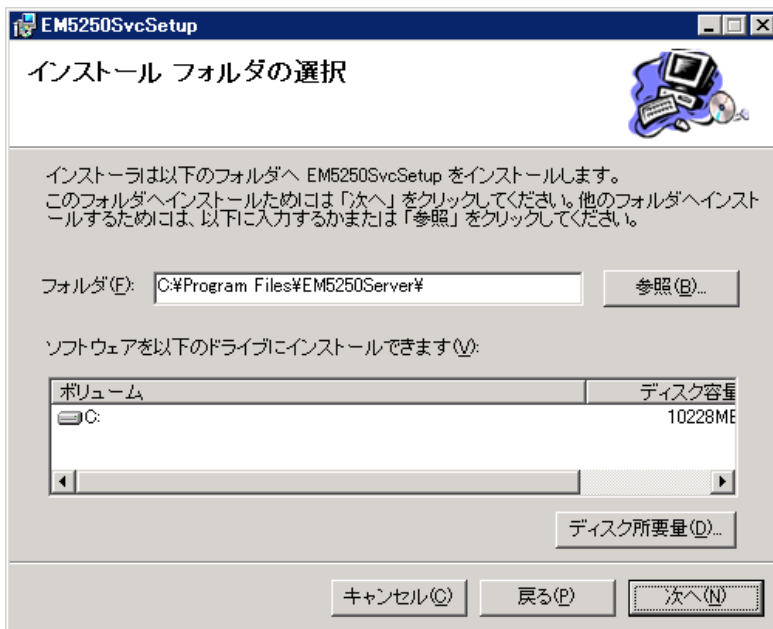
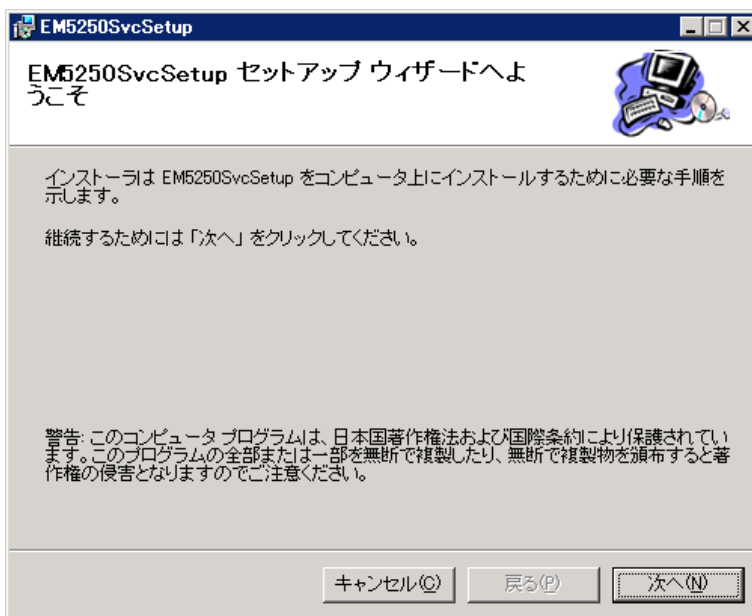
〔1〕サーバーへの導入

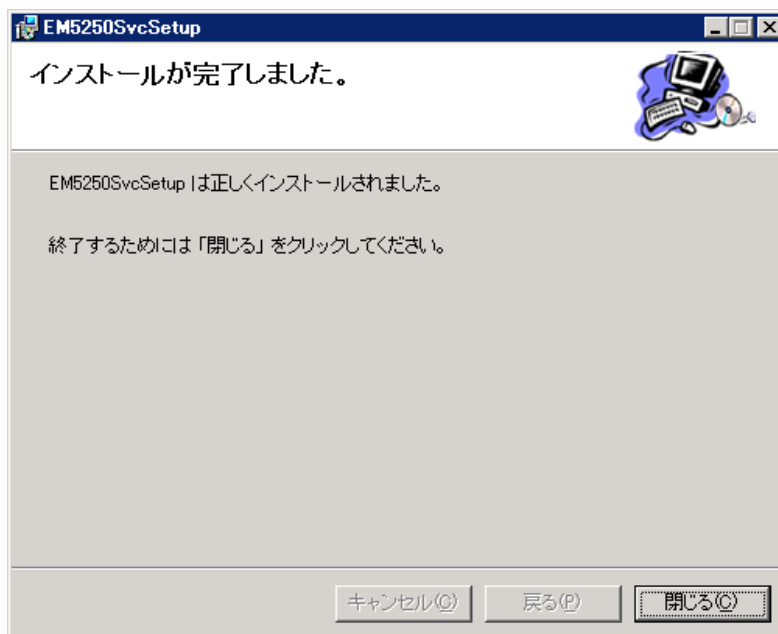
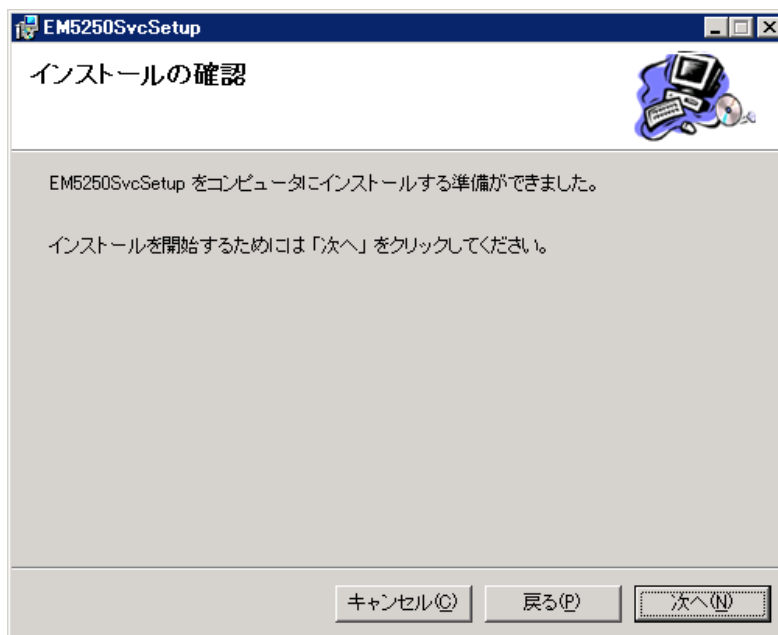
※IIS が導入されていない場合、インストールし ASP を実行可能な状態として下さい



①. プログラムのインストール

インストールプログラム EM5250SvcSetup.msi を実行します。
 ウィザードに従いインストールして下さい。





②. ライセンスキーの登録

ライセンスキーの登録を行います。(ライセンスキーを登録しないと、5250 エミュレーターは利用できません)

ライセンスキーである lickey.txt ファイルを用意してください。(サーバー毎に専用の lickey.txt ファイルがあります)

lickey.txt ファイルをインストールフォルダへ置いて下さい。

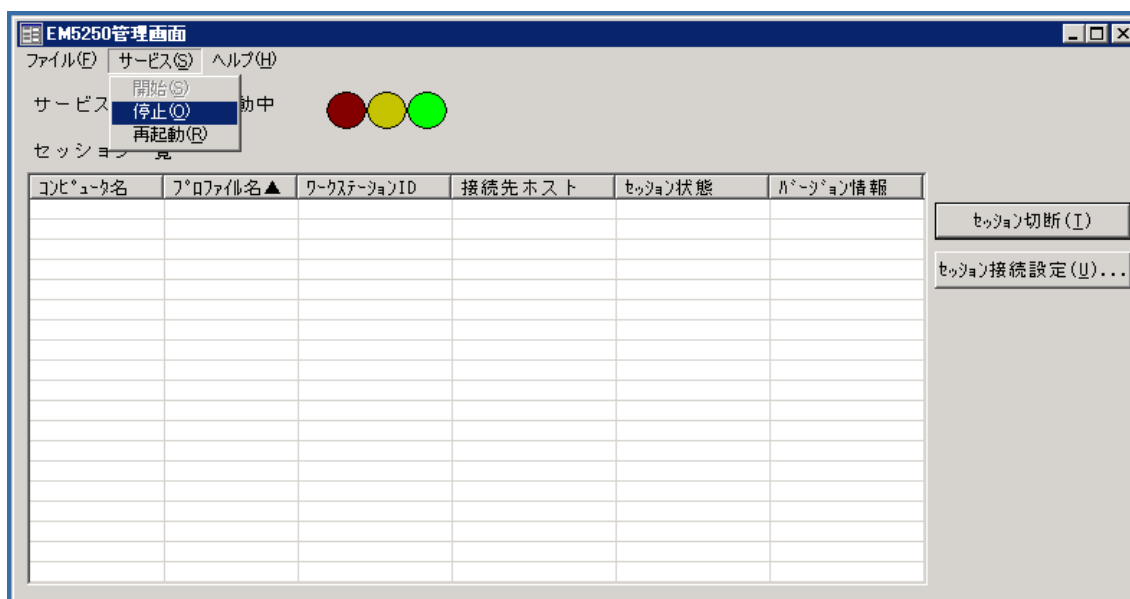
(デフォルトのインストールフォルダの場合、C:\Program Files\EM5250Server)

※lickey.txt ファイルは、5250 エミュレーター導入用 CDROM とは別に用意されています。

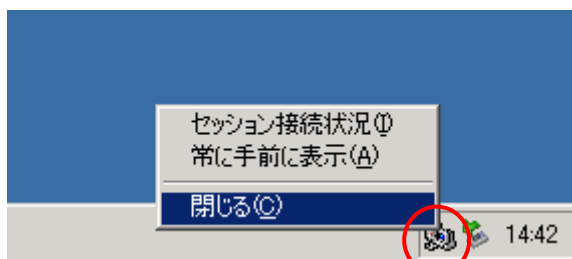
③. サーバープログラムの起動

ライセンスキーの登録後、プログラム再起動します。

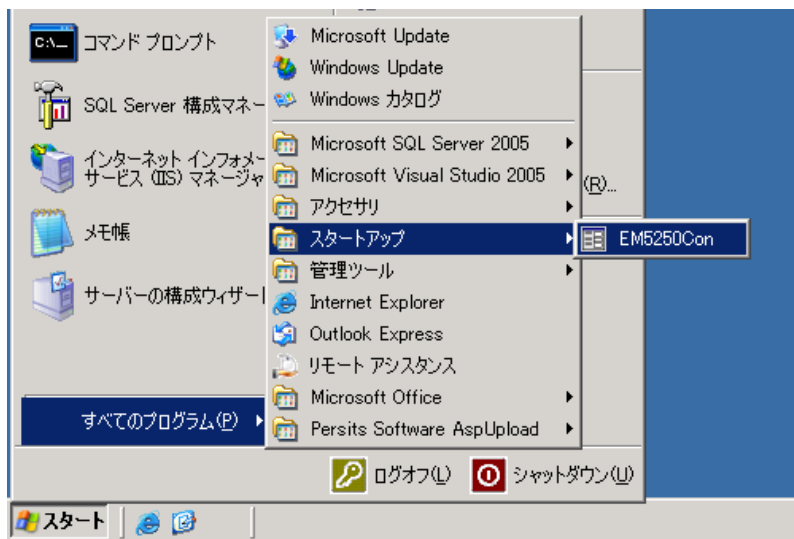
管理画面にて、[サービス]—[停止]してください



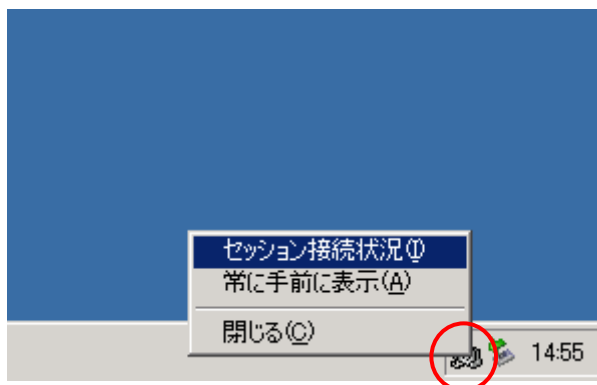
タスクトレイのアイコンを右クリックし「閉じる」を選択して下さい。



スタートアップの EM5250con をクリックし起動して下さい。



タスクトレイのアイコンを右クリックし、「セッション接続状況」をクリックしてください。



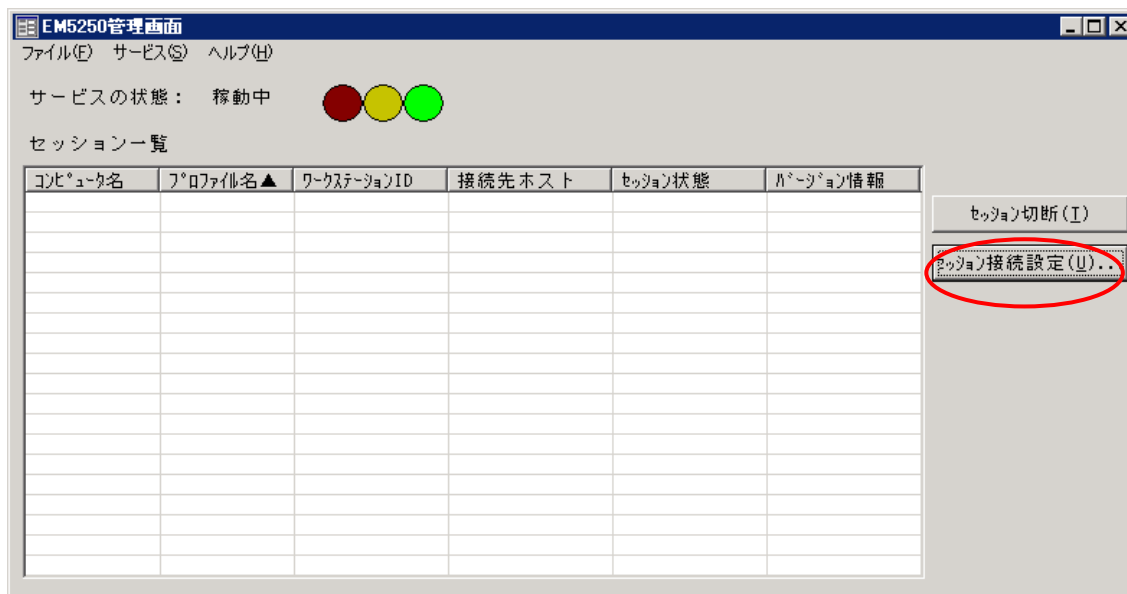
管理画面が表示されます。

(サービス開始されていない場合、[サービス]-[開始]から開始して下さい)



〔2〕セッション作成／変更

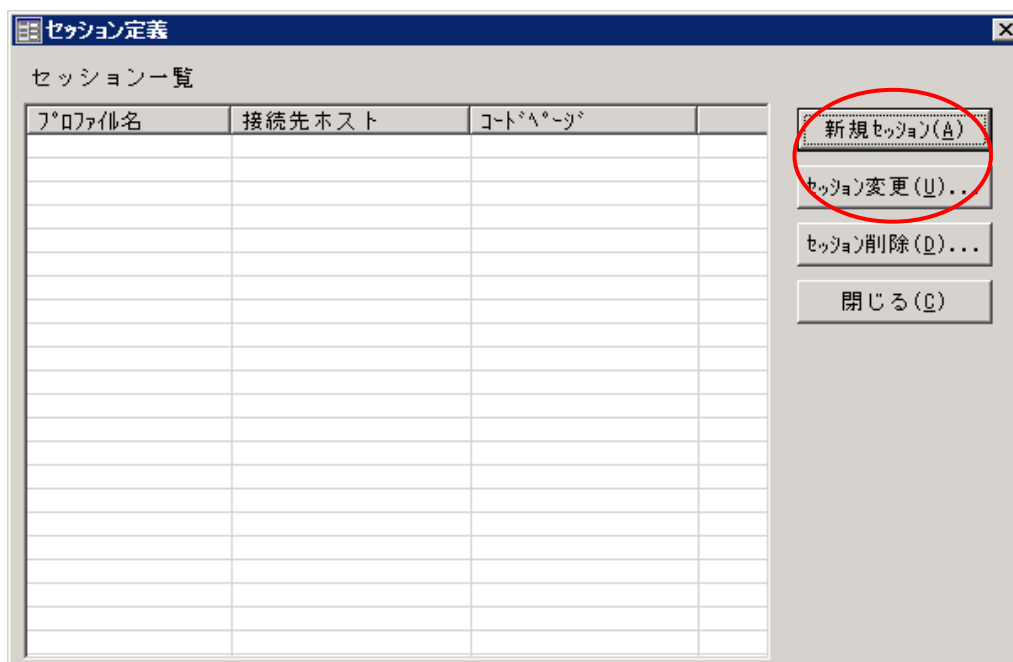
セッション接続設定ボタンをクリックします



新規セッションボタンをクリックします

変更の場合には、プロファイルを選択し、セッション変更ボタンをクリックします

※インストール直後は、サンプルセッション SES001, SES002 が存在してしますので適宜削除してください。



各項目を入力し、保存をクリックして下さい

The screenshot shows a dialog box titled 'セッション接続設定' (Session Connection Settings). It has several input fields and buttons. The '保存' (Save) button is highlighted with a red circle. The fields are: 'プロファイル名(P)' (Profile Name) with 'TESTSESSION', '接続先ホスト情報' (Connection Host Information) section with 'ホスト名(H)' (Host Name) '192.168.1.10', 'ポート(Q)' (Port) '23', and 'ワークステーションID(W)' (Workstation ID) 'A0='. Below that is 'ホストコードページ' (Host Code Page) with radio buttons for '939(日本語英数小文字拡張)' (selected) and '930(日本語英数カナ)'. At the bottom are checkboxes for '自動接続' (Automatic Connection) with '起動時自動接続' (Automatic connection at startup) and '切断時自動接続' (Automatic connection at disconnection) both checked. On the right side, there are buttons for '保存' (Save), '取り消し' (Cancel), 'ディスプレイ設定(D)...' (Display Settings...), 'カラー設定(C)...' (Color Settings...), and 'キー定義(K)...' (Key Definition...).

※ 以降の各設定は端末画面上でも設定可能なものがありますが、管理サーバでの設定が、そのセッションを利用する端末のデフォルト設定となります。

プロファイル名

このセッション接続の名前を入力して下さい

ホスト名

接続先 AS/400 を入力して下さい。

IP アドレスや FQDN 名での指定が可能です。

ポート

AS/400 と通信するポートを入力して下さい

ワークステーション ID

ワークステーション ID (表示装置) を入力して下さい。

ワイルドカード「=」を設定すると、既にワークステーション ID が使用されていた場合に自動的にインクリメントした次の ID が使用されます(衝突回避)

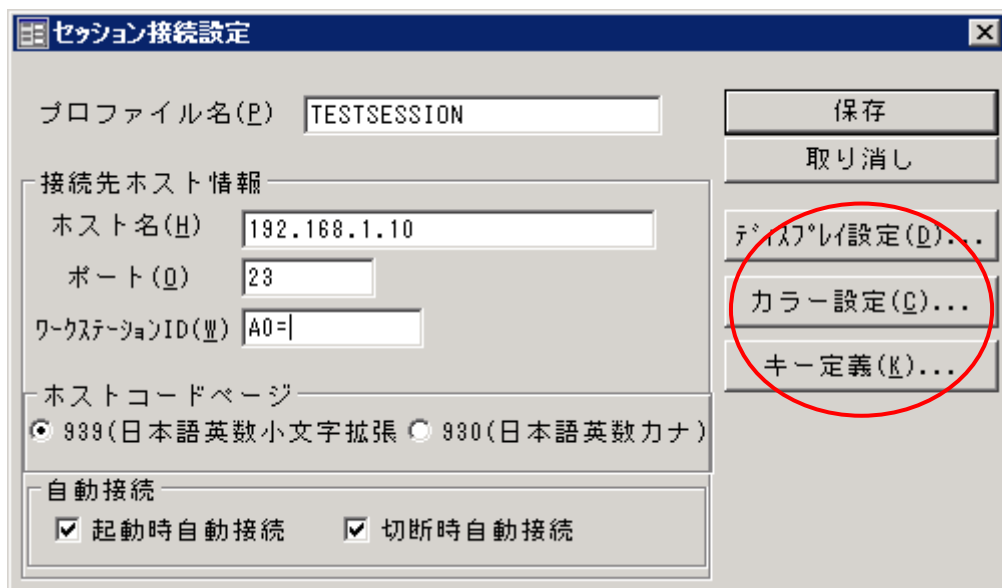
ホストコードページ

939 日本語英数小文字拡張 と 930 日本語英数カナ を選択できます

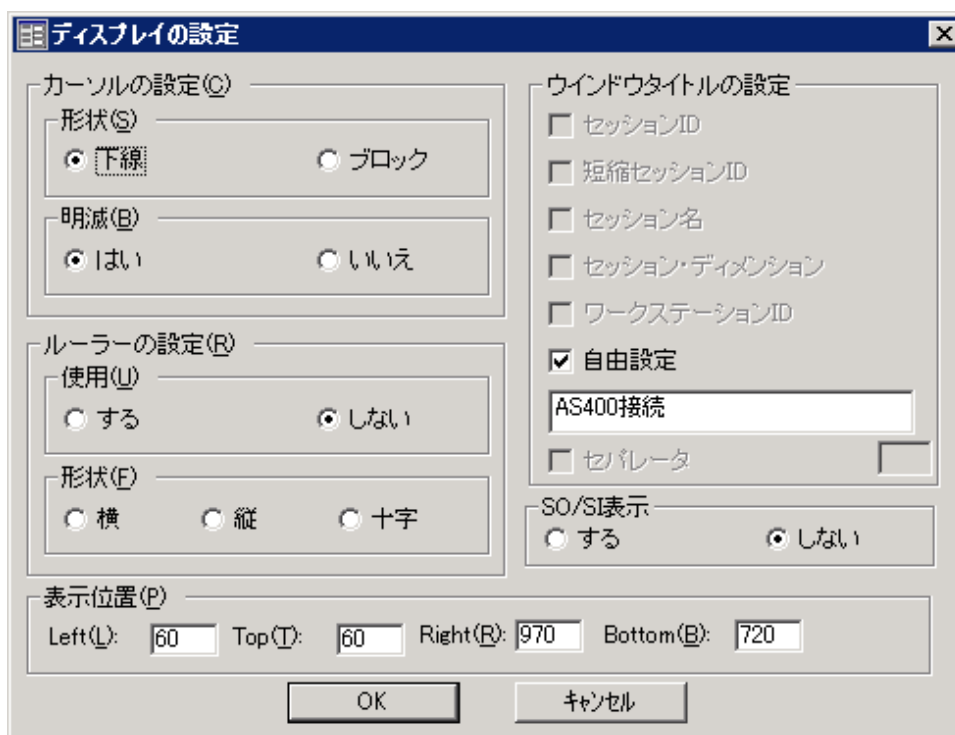
自動接続

起動時自動接続＝エミュレータを起動すると接続されます

切断時自動接続＝何かしらの原因で切断された場合、再接続を試みます



ディスプレイ設定



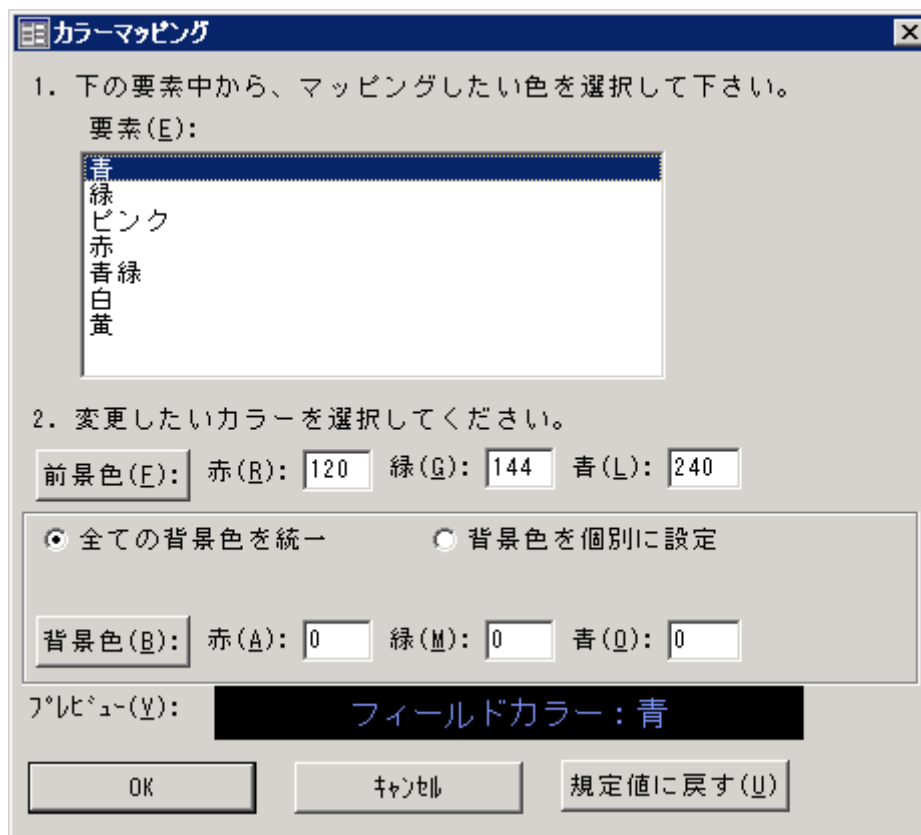
表示位置

エミュレータ画面のウィンドウサイズ、位置を設定します。

※値は本エミュレータ固有のもので、(ピクセル値などではありません)

※サーバー側のみ可能な設定です。端末側では設定できません

カラー設定



各文字の色とその背景色を他の色へ置き換え表示します。

要素

変更する文字の色を選択します

前景色

文字の色を設定します

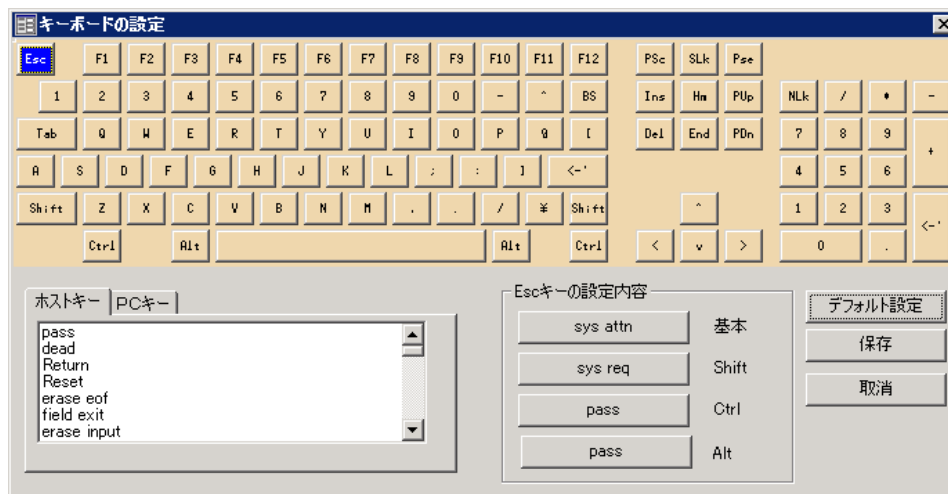
背景色

各文字の背景色を設定します

全ての背景色を統一＝全ての文字色（要素）の背景色が変更されます

背景色を個別に設定＝選択した文字色（要素）の背景色が変更されます

キー定義



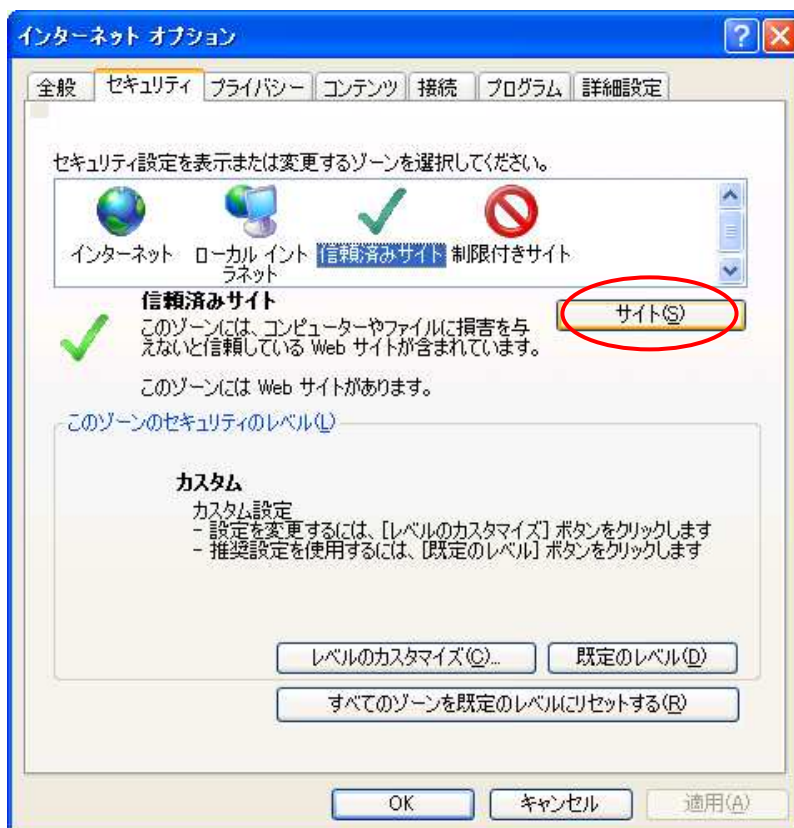
※詳しくは、4. キー定義詳細 を参照して下さい

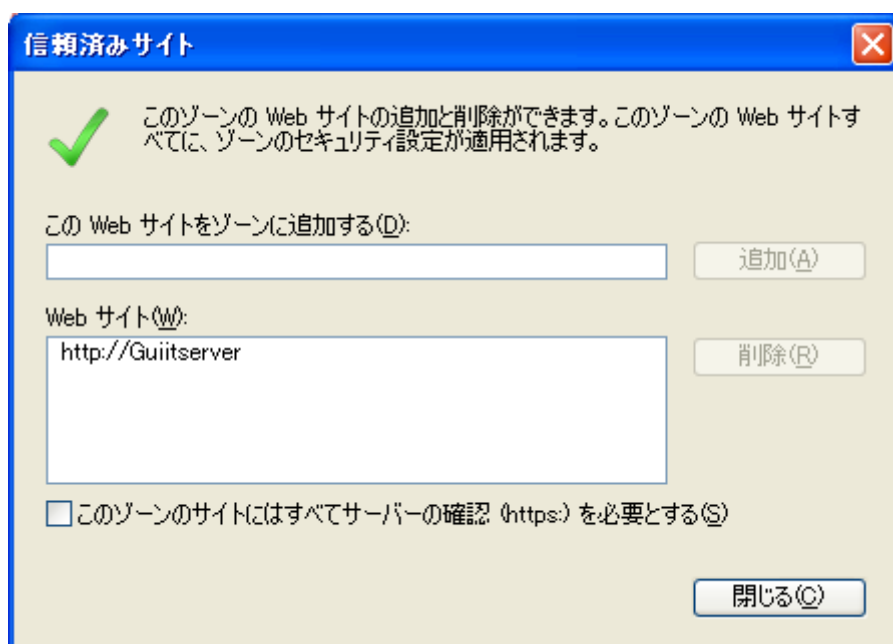
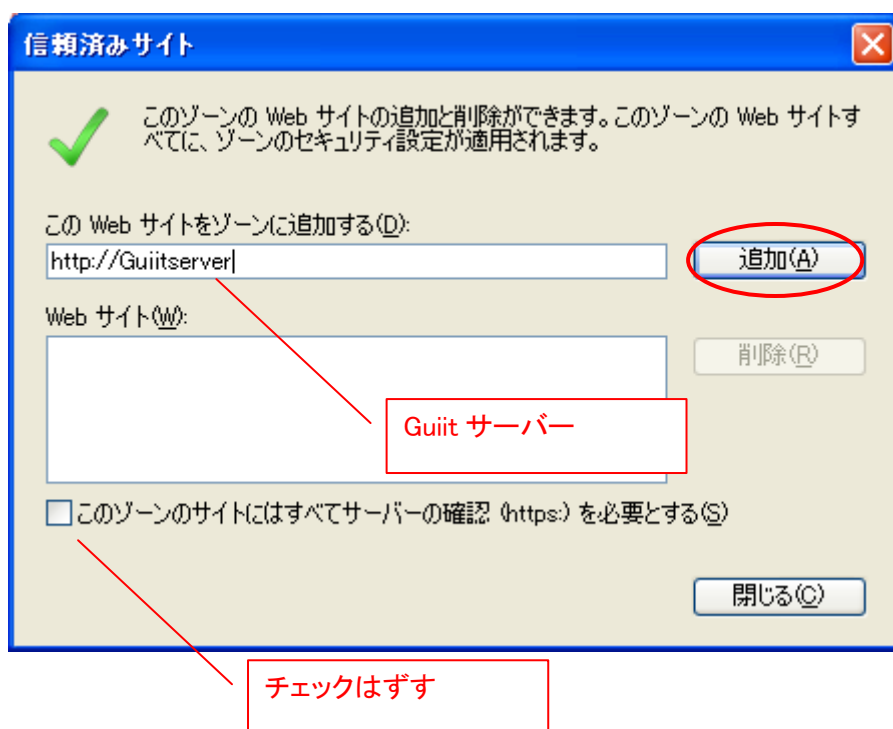
〔4〕 端末の設定

Internet Explorer を開き、[ツール]－[インターネットオプション]－[セキュリティ]にて未署名の ActiveX プログラムが動作できるように設定して下さい。

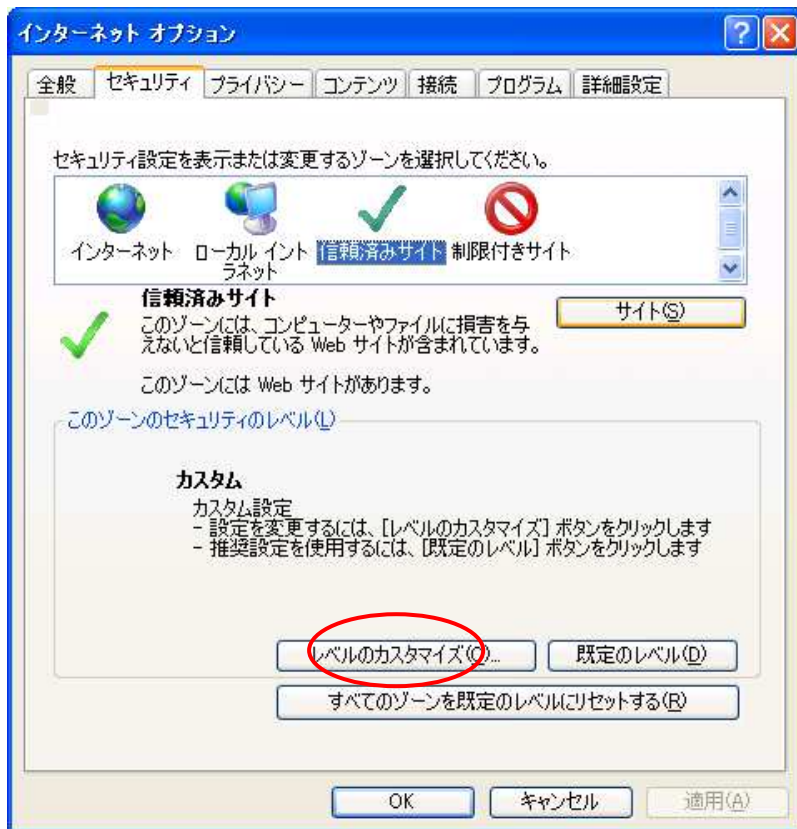
※通常、Guit プログラムは未署名の ActiveX プログラムとして動作します。署名付きとして動作させたい場合には、弊社担当者へご連絡下さい。署名付き ActiveX プログラムを作成し提供いたします。(別途費用がかかります)

(以下の例は、信頼済みサイトのゾーンとして設定する方法です。)

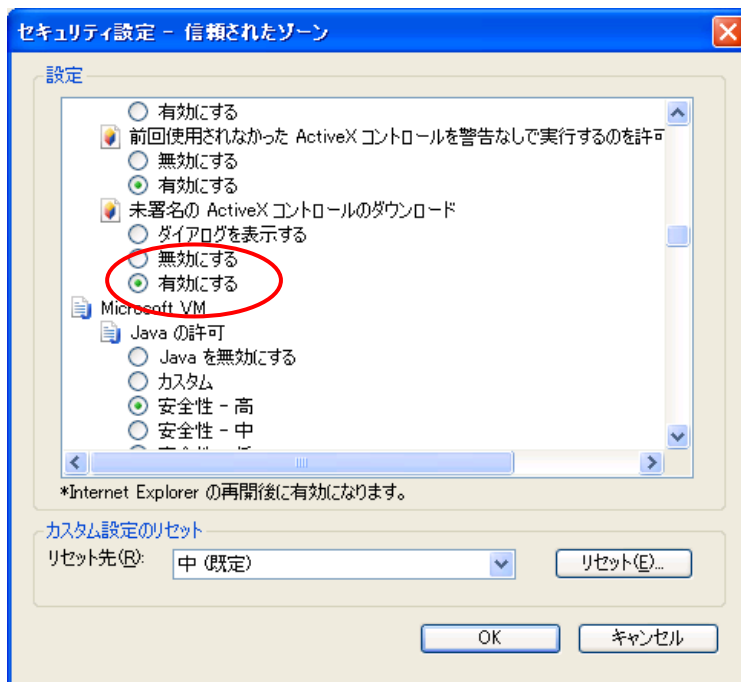




信頼済みサイトのレベルのカスタマイズ



未署名の ActiveX のダウンロードを有効

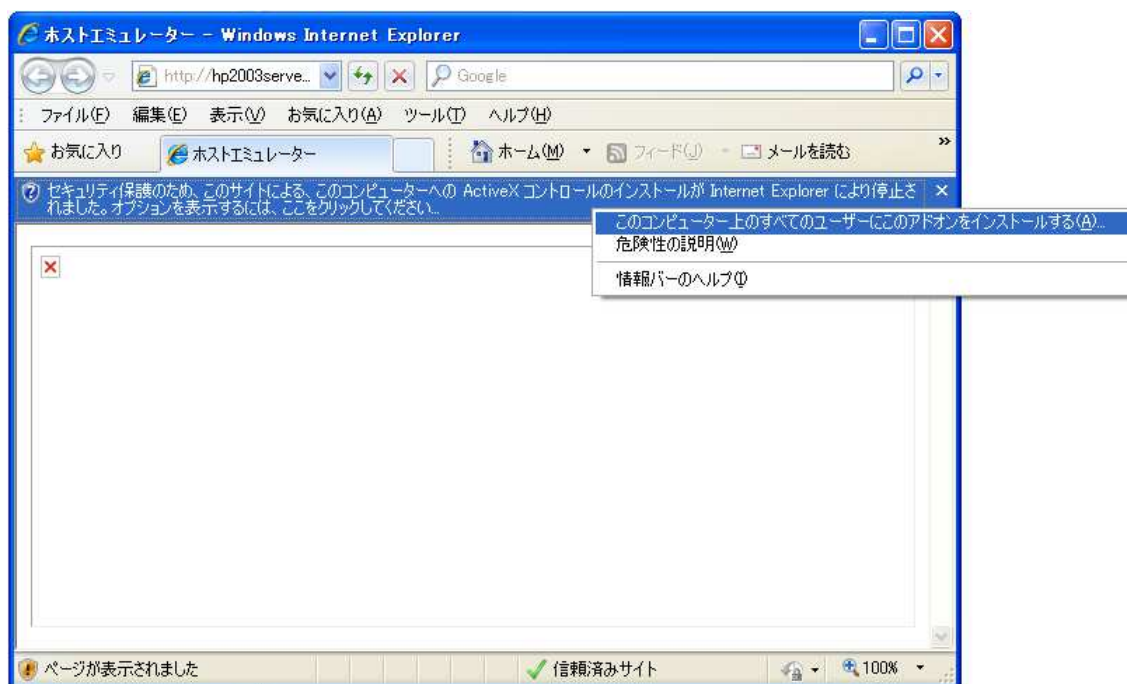


〔5〕 起動方法

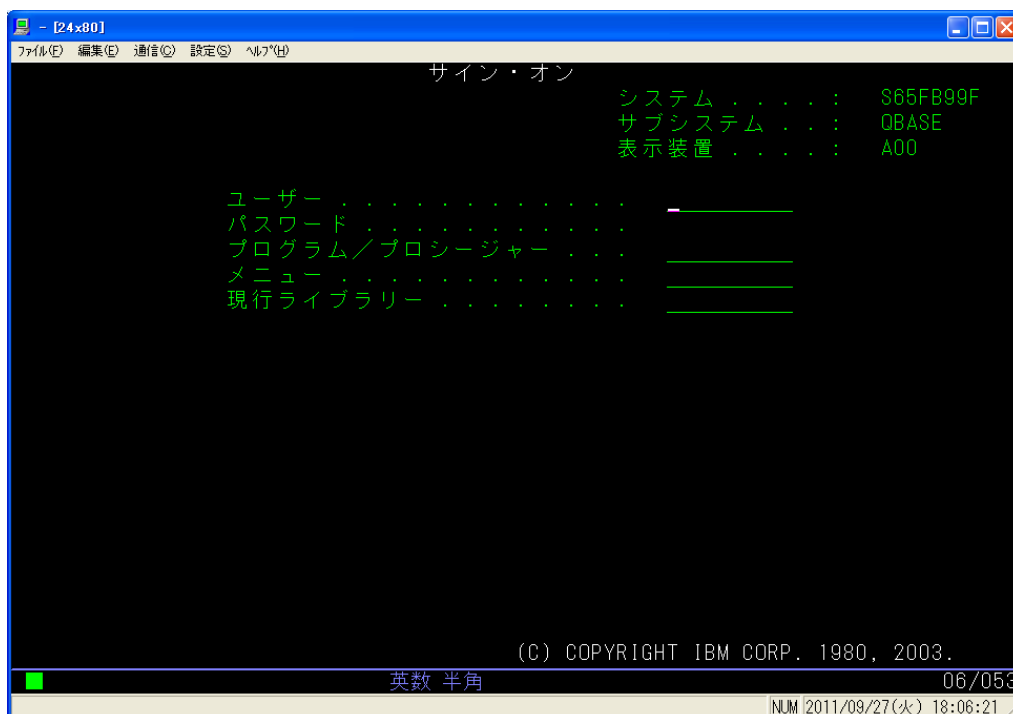
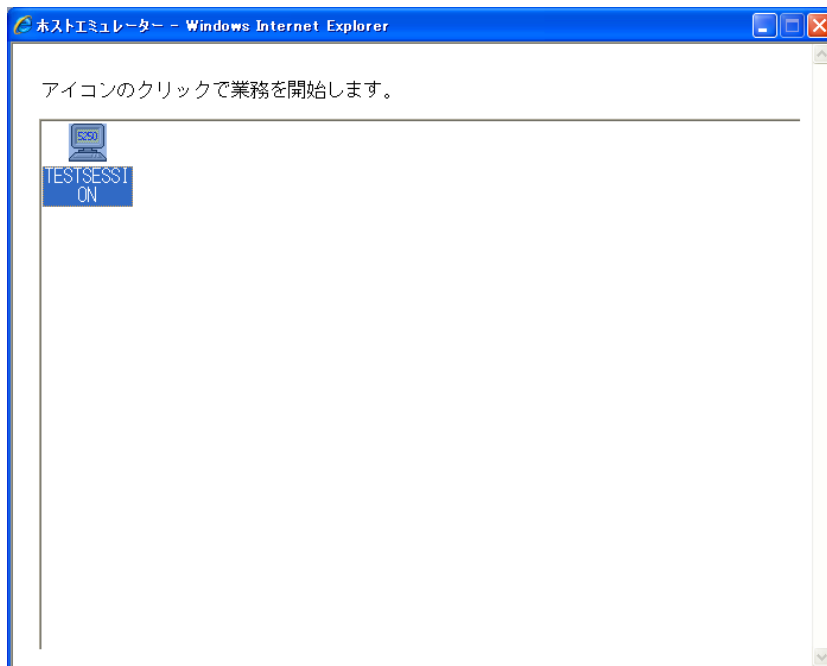
Internet Explorer を開き、以下の URL にアクセスします

http:// (サーバー名) /WebEmulator/5250.asp

以下のメッセージが表示された場合、「このコンピュータ上のすべて～」をクリック



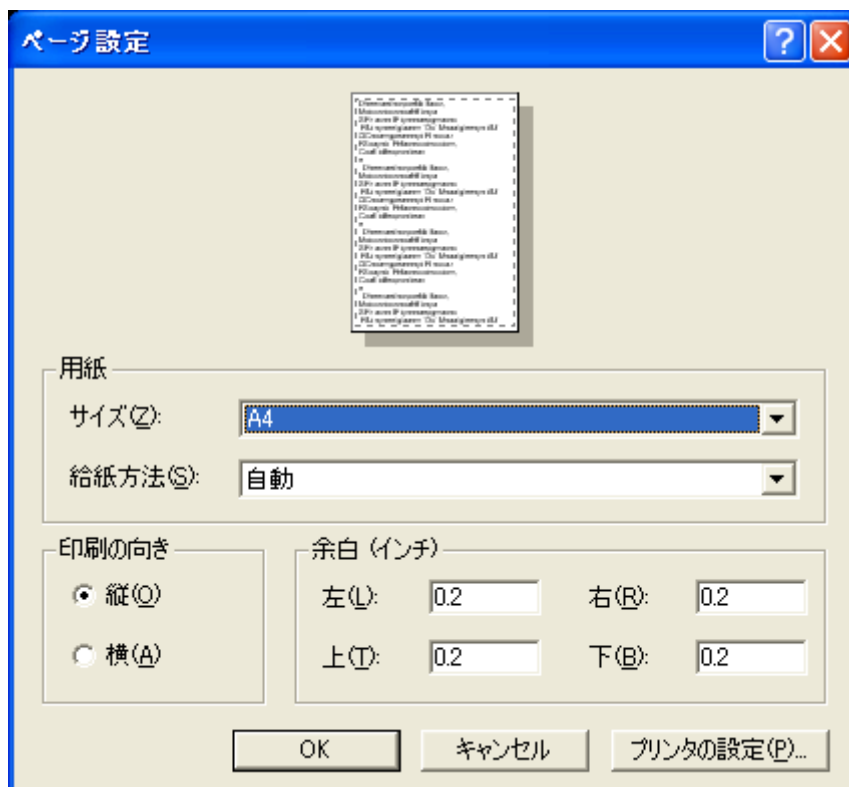
セッションアイコンをダブルクリックすると、エミュレータ画面が表示されます。



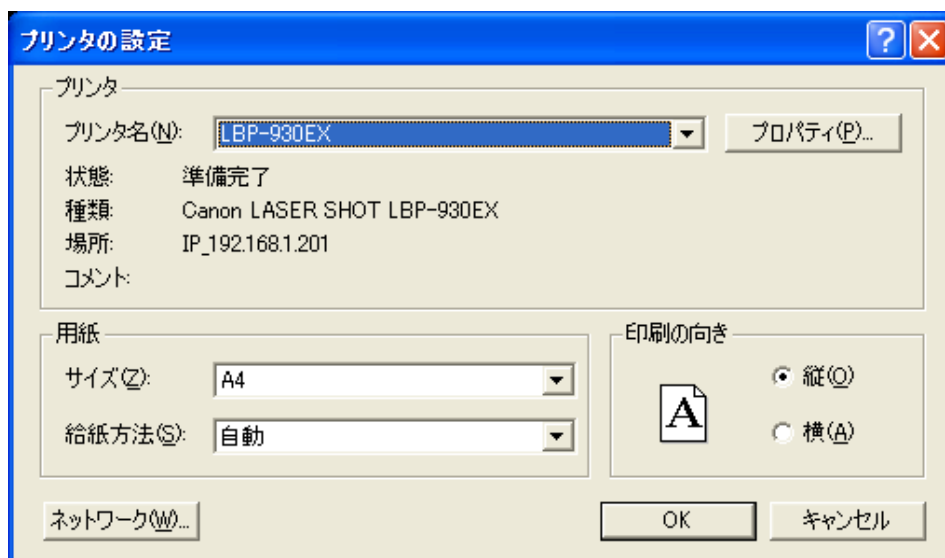
3. 端末エミュレータ画面

ファイル

ページ設定



プリンタの設定



印刷

設定したページ設定／プリンタに印刷します

アプリケーションの終了

エミュレータを終了し、画面を閉じます

編集

元に戻す

切り取り／コピー／貼り付け操作を元に戻します

切り取り

マウスカーソルなどで選択した範囲を切り取ります

コピー

マウスカーソルなどで選択した範囲をコピーします

貼り付け

クリップボードの内容を貼り付けます

通信

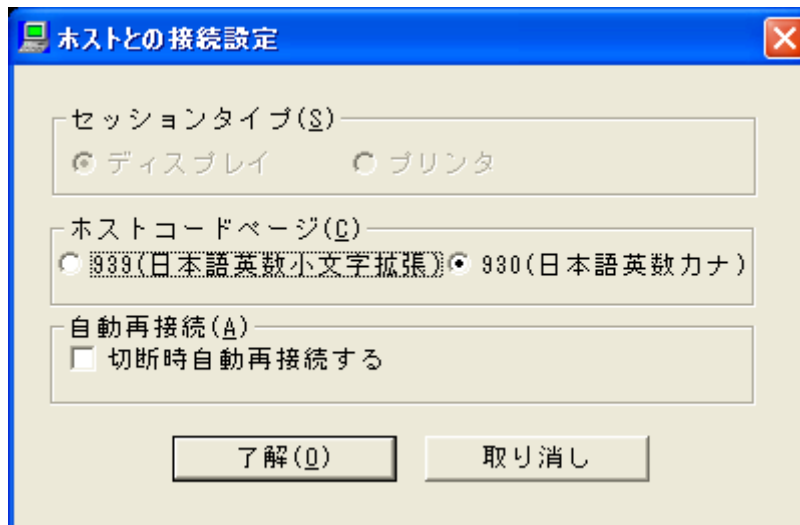
切断

ホストとの接続を切断します

自動接続

エミュレータ起動時に自動的に接続します

構成



セッションタイプ

「ディスプレイ」固定です

ホストコードページ

EBCDIC コードをホストから PC 上の 当該 ANSI コードにマップするために使用されるテーブルを意味します。

930（日本語英数カナ）、939（日本語英数小文字）のいずれかの設定となります。

自動再接続

何かしらの原因で切断された場合、再接続を試みます

設定

ディスプレイの設定

カラーマッピング

キーマッピング

フォント

⇒サーバーでの設定と同様です。

2. 5250 エミュレーター導入設定手順－〔2〕セッション作成／変更を参照して下さい。

※「設定」はサーバー側の管理画面、端末側のエミュレータ画面の両方にて変更可能ですが、

- ・サーバーの管理画面　＝恒久的な設定保存
- ・端末のエミュレータ画面＝一時的な設定。画面が閉じられると設定は破棄となります。

4. キー定義詳細

ここでは、キー定義について詳細を記述します

キー定義

1つ1つのキーを個別に定義する「個別設定」と、全てのキーを「デフォルト設定」に一括定義する選択が可能です。

※ 新規セッション作成時は、「デフォルト設定」にて定義されています。

(1) 個別設定

管理サーバでのセッション単位の設定と端末での設定に分かれます。

管理サーバでの設定は、そのセッションを利用する端末のデフォルト設定となります。

端末での設定はその端末でエミュレータを終了すると無効になります。

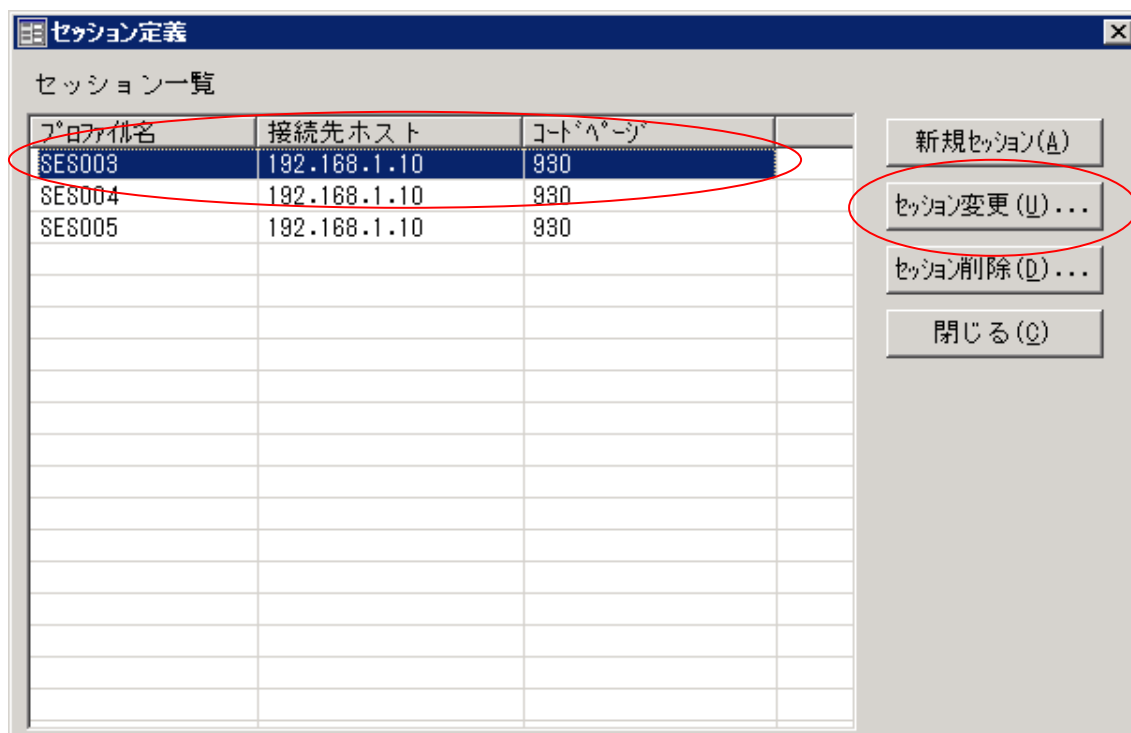
以下に管理サーバと端末でのキー定義設定の手順を示します。

【管理サーバでの設定】

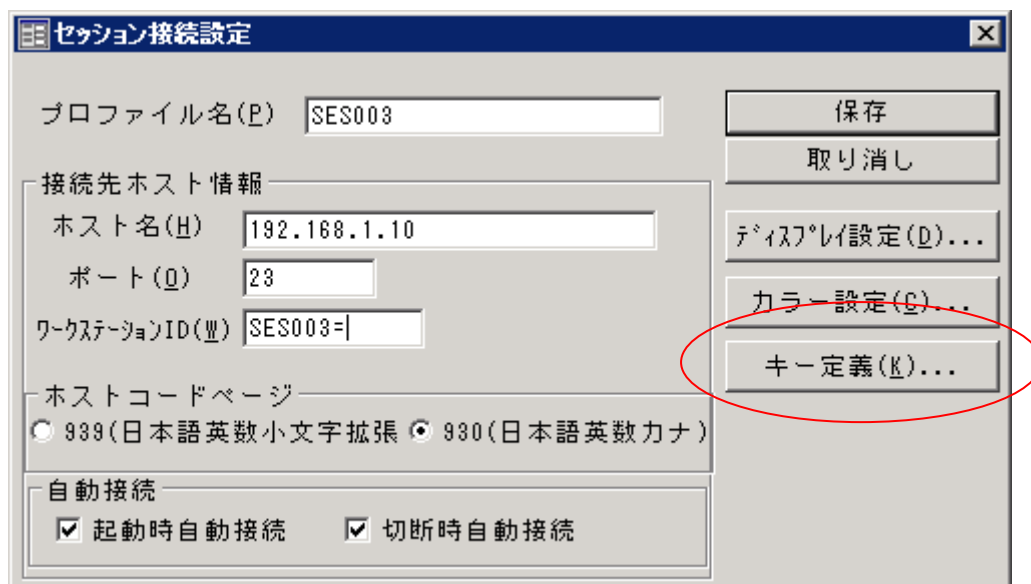
(1) 管理画面で「セッション接続設定」ボタンをクリックします。



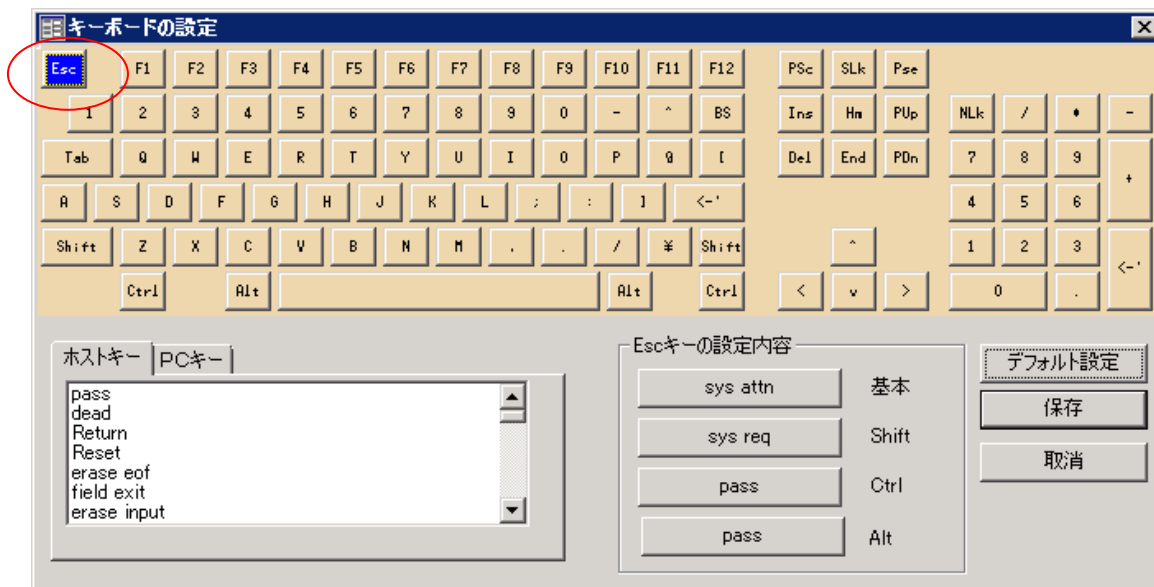
(2) セッション一覧から対象のセッションを選択して、「セッション変更」ボタンをクリックします。



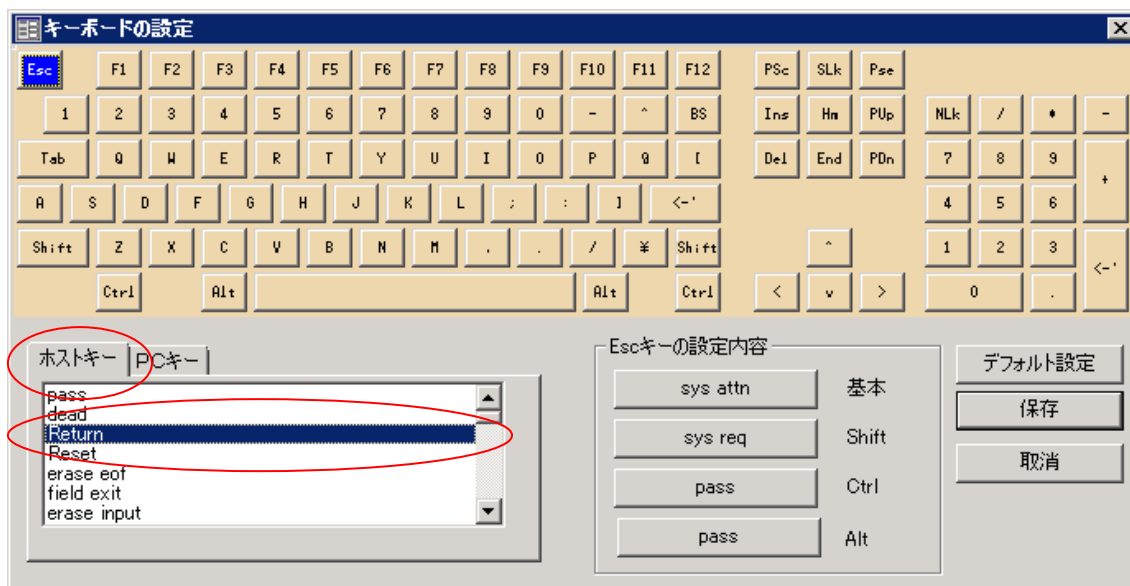
(3) 「セッション接続設定」画面が表示されるので「キー定義」ボタンをクリックします。



- (4) 表示された「キーボードの設定」画面でキー定義設定を行います。
 設定対象のキーをキーボード上で選択します。
 例では「Esc」キーを選択しています。

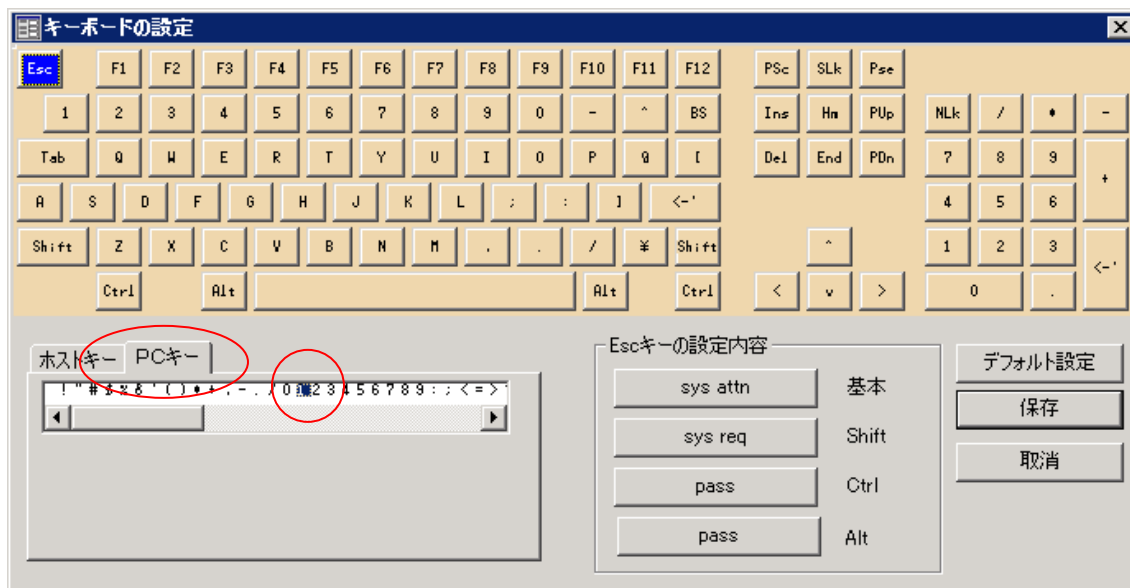


- (5) キーに割り当てる機能を選択します。
 機能は「ホストキー」(AS/400 やエミュレータで意味を持つ機能) と「PC キー」(文字、記号など)に分かれます。
 例では「ホストキー」の「Return」機能を選択しています。



「PC キー」から文字や記号を選択する場合は以下のようになります。

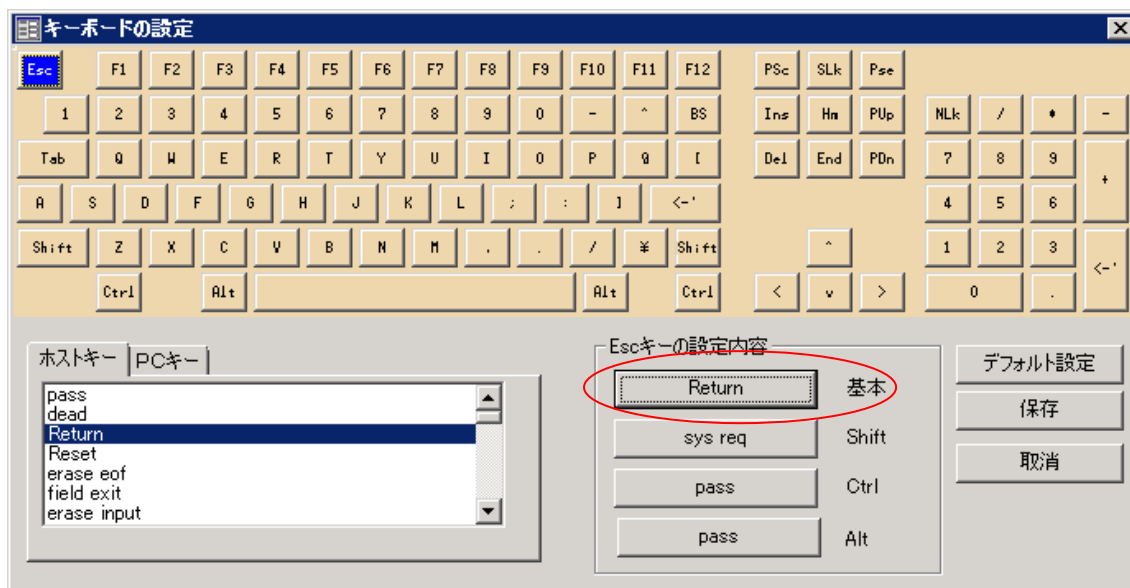
例では「PC キー」の「1」の文字を選択しています。



(6) キーの「基本」「Shift」「Ctrl」「Alt」のいずれかに選択した機能を割り当てます。目的の機能が選択された状態で「基本」「Shift」「Ctrl」「Alt」のいずれかのボタンをクリックして下さい。

「基本」（単独でキーを押した場合）、「Shift」（Shift と一緒にキーを押した場合）、「Ctrl」（Ctrl と一緒にキーを押した場合）、「Alt」（Alt と一緒にキーを押した場合）をそれぞれ表します。

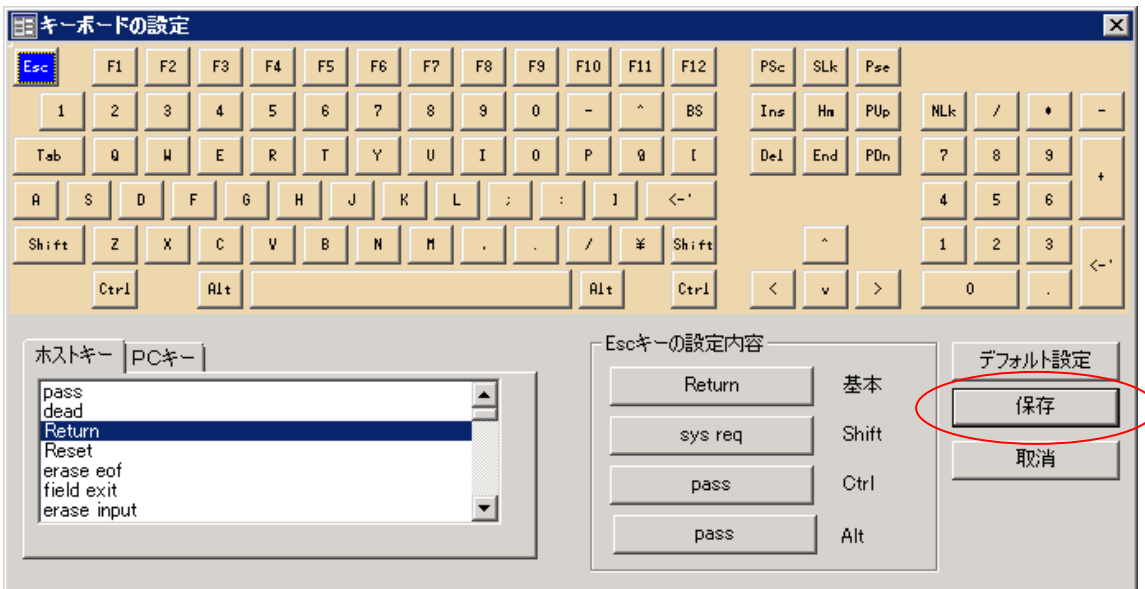
例では「Esc」キーの「基本」に「ホストキー」の「Return」機能を割り当てています。



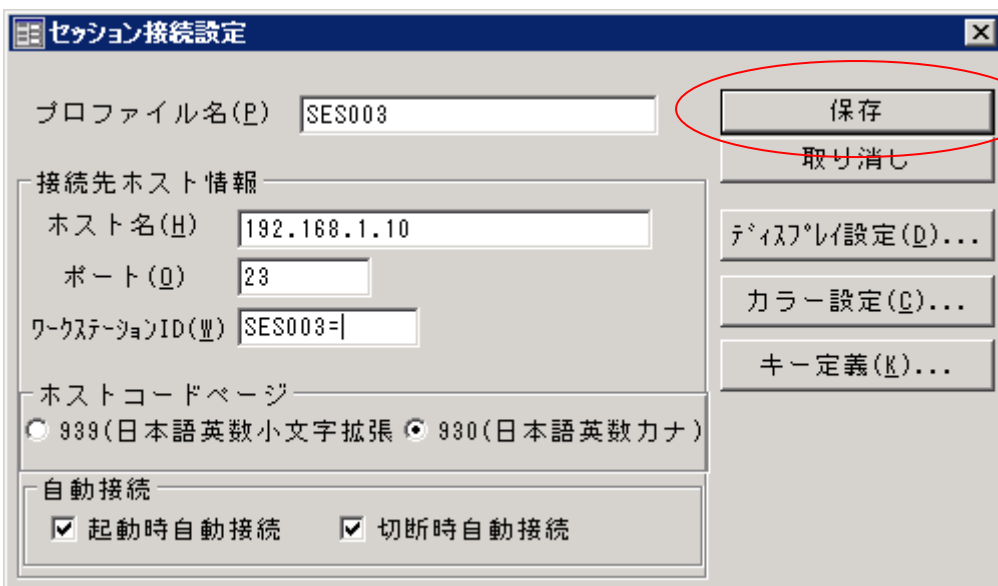
(7) 「保存」ボタンをクリックして「セッション情報設定」画面に戻ります。

ここでの保存はセッション接続設定中の一時保存にあたります。

設定を行いたい全てのキーに上記(4)～(6)の手順を行ってから「保存」ボタンをクリックすることで一度に複数のキーの設定を行うことが出来ます。

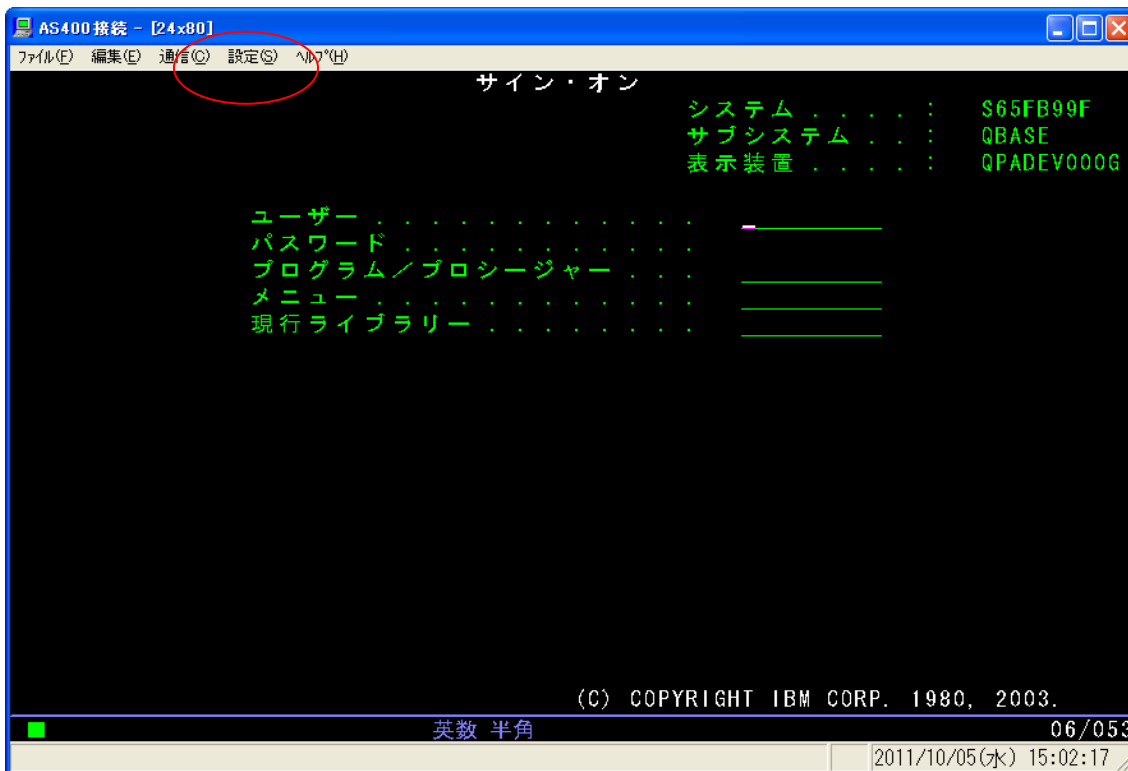


(8) 「セッション接続設定」画面に戻ったら「保存」ボタンをクリックすることでキー定義の設定が保存され、次回からこのセッションを利用する端末で保存した設定が反映されます。



【端末での設定】

- (1) 端末を起動し、メニューの「設定」→「キー定義」を選択します。



- (2) 「キーボードの設定」画面が表示されるので管理サーバ側と同様の手順でキー定義の設定を行います。



(3) 「保存」ボタンをクリックします。

キーマップの設定が保存されます。

端末でのキーマップ設定はその端末でエミュレータを終了すると無効となります。



【キーマップ可能なキーの一覧】

以下にキーマップで機能を割り当てる事が出来るキーの一覧を示します。

キーマップ可能なキーの一覧は管理サーバも端末も同一となります。

キー	「キーボードの設定」画面の表示
0~9	0~9
A~Z	A~Z
-(マイナス)	-
^ (キャレット)	^
@	@
[[
;(セミコロン)	;
:(コロン)	:
]]
, (カンマ)	,
. (ピリオド)	.
/	/
¥	¥
F1~F12	F1~F12
Esc	Esc

Tab	Tab
左 Shift	Shift
左 Ctrl	Ctrl
左 Alt	Alt
Space	
右 Shift	Shift
右 Ctrl	Ctrl
右 Alt	Alt
Enter	<- ‘
BackSpace	BS
PrintScreen	PSc
ScrollLock	SLk
Pause	Pse
Insert	Ins
Home	Hm
PageUp	PUp
Delete	Del
End	End
PageDown	PDn
↑	^
↓	v
←	<
→	>
NumLock	NLk
テンキー /	/
テンキー *	*
テンキー - (マイナス)	-
テンキー +	+
テンキー Enter	<- ‘
テンキー . (ピリオド)	.
テンキー 0	0
テンキー 1	1
テンキー 2	2
テンキー 3	3
テンキー 4	4

テンキー 5	5
テンキー 6	6
テンキー 7	7
テンキー 8	8
テンキー 9	9

【キー定義可能な機能の一覧】

以下にキー定義でキーに割り当てる事が出来る機能の一覧を示します。

キー定義可能な機能の一覧は管理サーバも端末も同一となります。

■ホストキー

機能	説明
pass	システム・デフォルト
dead	無効
Return	改行
Reset	リセット
erase eof	EOF 消去
field exit	フィールド終了
erase input	入力消去
delete char	削除
insert	挿入切替
home	カーソル・ホーム
edit-cut	編集切り抜き
edit-paste	編集貼り付け
char backspace	後退
tabfield	タブ
backtab	後退タブ
roll up	次ページ
roll down	前ページ
up	カーソル上移動
down	カーソル下移動
left	カーソル左移動
right	カーソル右移動
mark_up	マーク水平線上移動
mark_down	マーク水平線下移動
mark_left	マーク垂直線左移動

mark_right	マーク垂直線右移動
field+	Field +
field-	Field -
so si	S0/SI の挿入
sys attn	アテンション
Clear	画面消去
Enter	実行
sys req	システム要求
PA1~PA3	プログラム・アテンション・キー
F1~F24	プログラム・ファンクション・キー
alt view	文字コード切り替え

■PC キー

文字	説明
空白	
!	
“	ダブルクォーテーション
#	
\$	
%	
&	
‘	シングルクォーテーション
(
)	
*	
+	
,	カンマ
-	ハイフンマイナス
.	ピリオド
/	
0~9	
:	コロンの
;	セミコロン
<	
=	

>	
?	
@	
A~Z	
[
¥	
]	
^	キャレット
_	アンダーライン
`	逆シングルクォーテーション
a~z	
{	
	パイプライン
}	
~	チルダ

(2) デフォルト設定

全てのキーをデフォルト設定の機能に割り当てます。

デフォルト設定は「IBM デフォルト」に類似の定義がなされます。

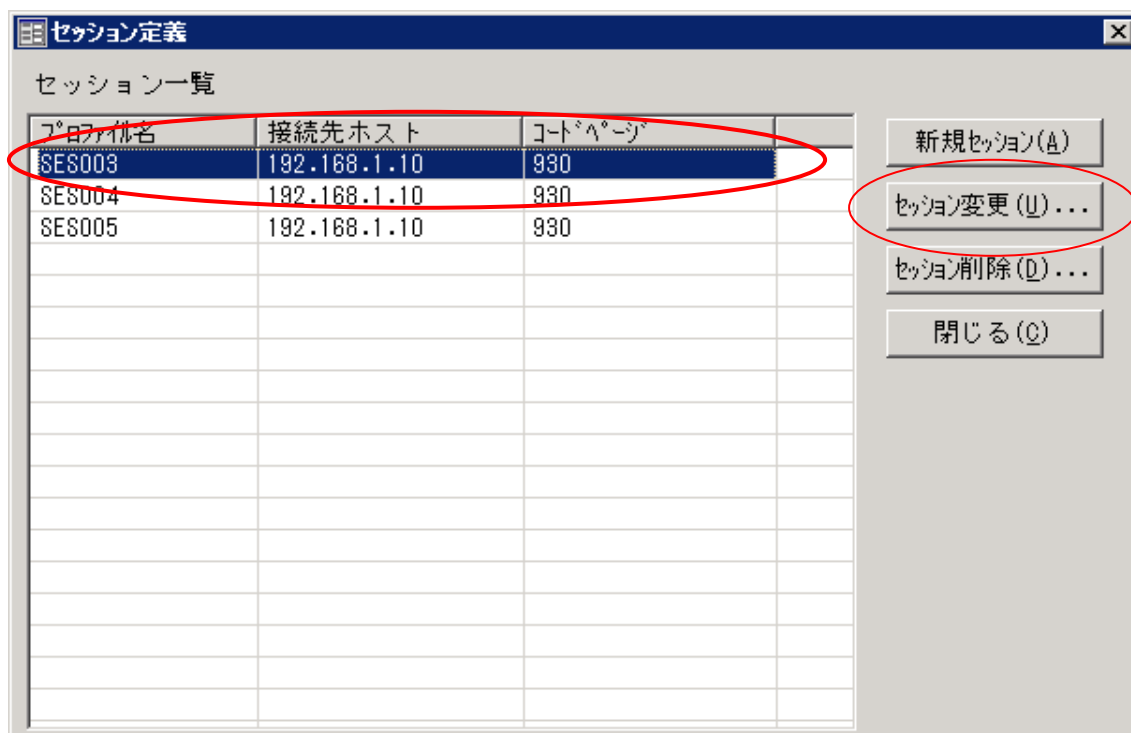
以下に管理サーバと端末でのデフォルト設定の手順を示します。

【管理サーバでの設定】

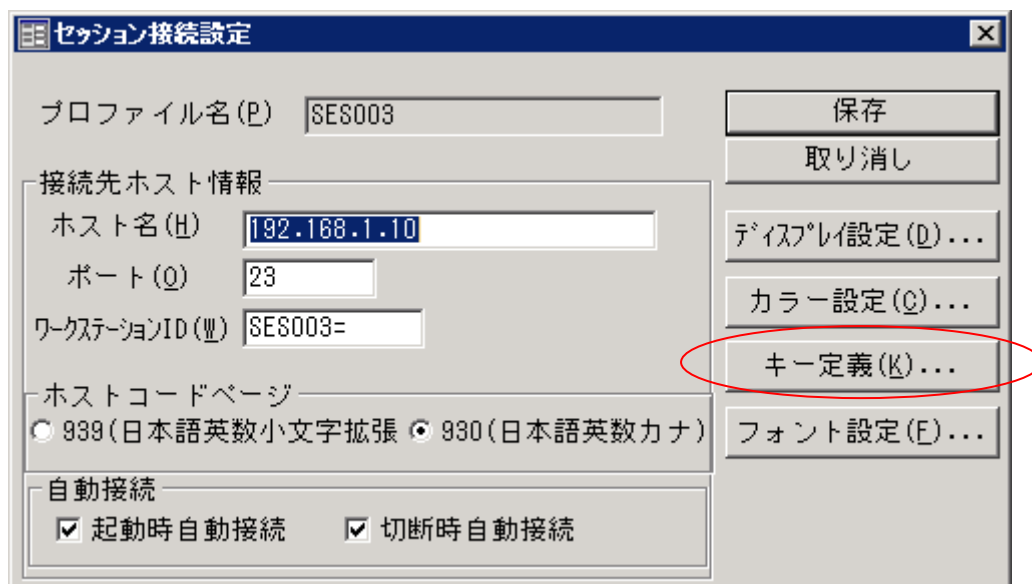
(1) 管理画面で「セッション接続設定」ボタンをクリックします。



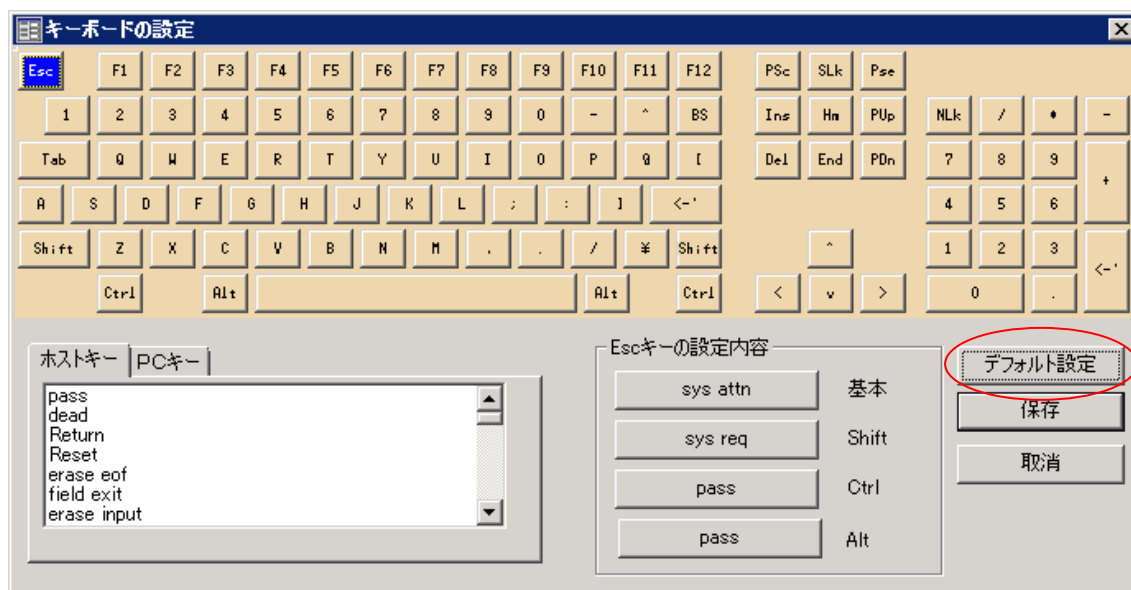
(2) セッション一覧から対象のセッションを選択して、「セッション変更」ボタンをクリックします。



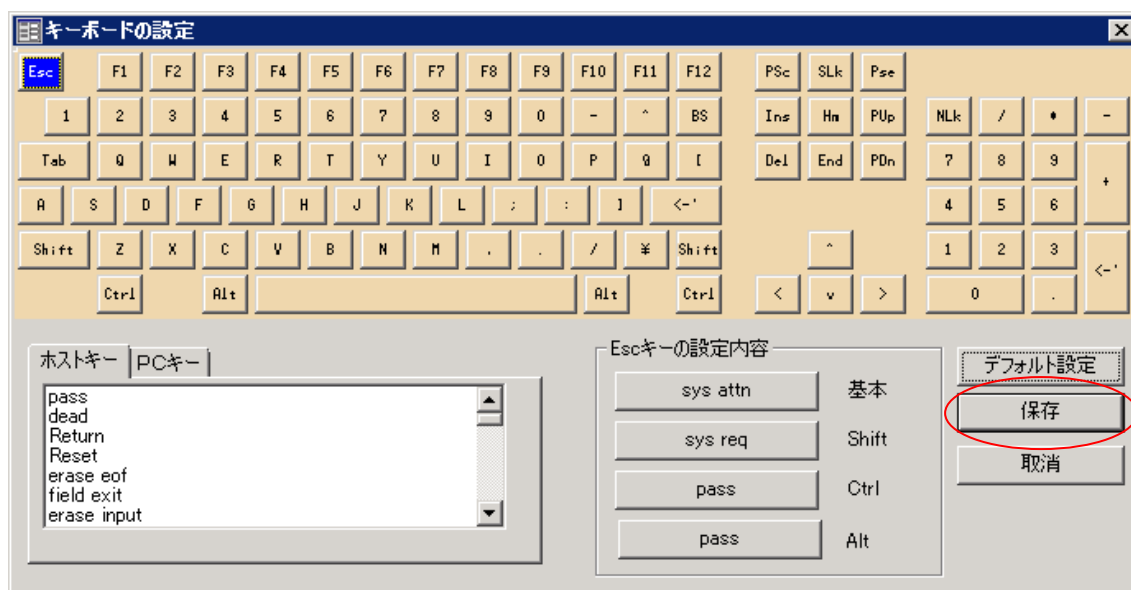
(3) 「セッション接続設定」画面が表示されるので「キー定義」ボタンをクリックします。



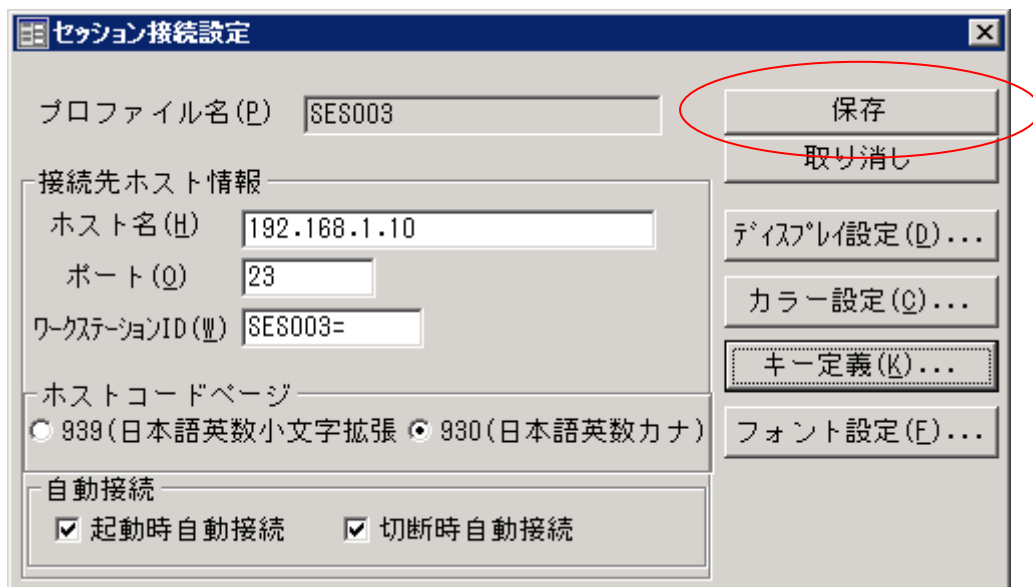
- (4) 表示された「キーボードの設定」画面で「デフォルト設定」ボタンをクリックします。キー定義の設定がデフォルト状態にリセットされます。



- (5) 「保存」ボタンをクリックして「セッション情報設定」画面に戻ります。

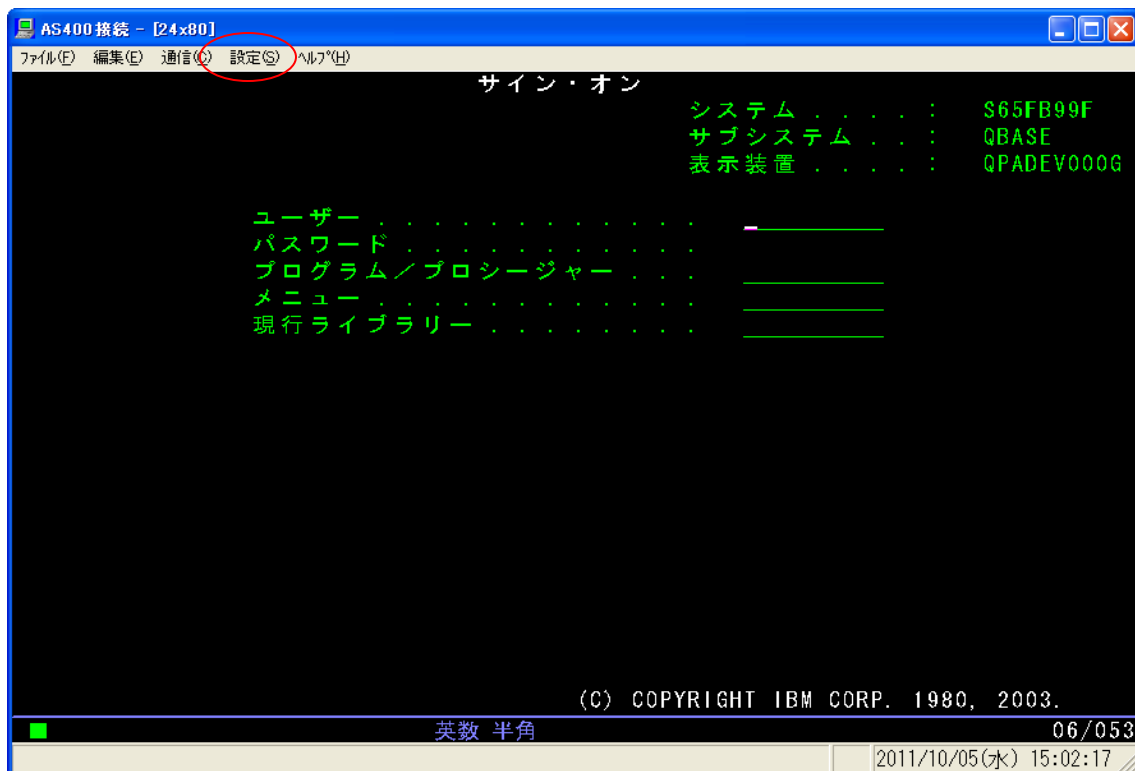


(8) 「セッション接続設定」画面に戻ったら「保存」ボタンをクリックすることでキー定義の設定が保存され、次回からこのセッションを利用する端末で保存した設定が反映されます。



【端末での設定】

(1) 端末を起動し、メニューの「設定」→「キー定義」を選択します。



(2) 「キーボードの設定」画面が表示されるので「デフォルト設定」ボタンをクリックします。

キー定義の設定がデフォルト状態にリセットされます。



(3) 「保存」ボタンをクリックします。

キー定義の設定が保存されます。

端末でのキー定義設定はその端末でエミュレータを終了すると無効となります。



5. 前提事項

本章では、5250 エミュレーターに関する前提事項について説明します。

〔1〕動作環境

端末

OS=WindowsXP、Windows7

ブラウザ=InternetExplorer8

サーバー

OS=Windows2003Server (32bit) +IIS

〔2〕ホスト接続形態

TN 5250 接続 (※1) のみをサポートします。

※1 TN 5250 接続

TN 5250 インターフェースを使用し、TCP/IP ネットワーク を介して IBM AS/400 ホストにアクセスすることができます。

なお、ホストと SNA 接続が必要な場合には、別途 IBM Communication Server (※2) をゲートウェイとして、SNA から TN 5250 に変換することで使用することが可能となります。

※2 IBM Communication Server は、IBM 社の登録商標です。

6. ホストとの接続について

〔1〕ワークステーションID (5250) について

ワークステーションIDは任意に指定可能です。次の2通りの指定方法があります。

- ・ワークステーションIDを指定した接続（以降、固定割当と記載）
- ・ホストの自動装置構成により自動で割り当てられたワークステーションIDでの接続（以降、自動割当と記載）

注) 固定割当での接続を行う場合は、重複が発生しないよう十分に確認をお願いします。

注) 自動割当での接続を行う場合は、ワークステーションIDを空白にしてください。

〔2〕接続可能端末数について

ホストと同時に接続できる端末数はご購入のライセンス数の制限によります。

【注意事項】

本エミュレータにはセッションキープ機能はありません。

何かしらの原因で切断された場合には、次の接続は最初の画面からの開始となります。

〔3〕ホスト接続の構成について

（1）5250（AS/400）ホスト接続

TCP/IP を経由した Telnet5250 による接続のみをサポートします。

Telnet 5250 によって、Telnet サーバーに TCP/IP を経由して接続することができます。

Telnet 5250 接続構成については、以下を参照してください。

ホストとの接続設定	設定・指定内容
接続ホスト名または IP アドレス	ターゲット・ホストの名称もしくは IP
ワークステーション ID	5250 ワークステーション ID (※1)
ポート番号	23
セッションタイプ	ディスプレイ
ホストタイプ	5250
接続形態	TN 5250
ホストコードページ	930 または 939 (※2)

表 8-1 Telnet 5250 接続構成

※1 ワークステーション ID

ワークステーションの装置名 (DEVNAME) を意味するもので、最大 10 文字で構成されます。

ワークステーション ID は、AS/400 のワークステーションの装置名 (DEVNAME) と一致しています。

ワークステーション ID については、任意に指定可能です。

※2 ホストコードページ

EBCDIC コードをホストから PC 上の 当該 ANSI コードにマップするために使用されるテーブルを意味します。

930 (日本語英数カナ)、939 (日本語英数小文字) のいずれかの設定となります。